

平成 22 年度中学生と市長のふれあいトーク会議録

平成 22 年 9 月 4 日、市役所 3 階政策審議室で中学生と市長のふれあいトークを開催しました。中学生と市長のふれあいトークは、中学生の立場から見たまちづくりへの意見や提言に、市長が市の考えを説明し、中学生と意見を交換することで市政への関心と理解を深め、また、意見・提言を施策へ反映させていこうとするものです。

市内の中学校から各 1 名が出席して、まちを活気づけるための提案や、地域との交流、清掃活動への取り組みなどの提案がありました。

中学生と市長のふれあいトーク会議録

日時：平成 22 年 9 月 4 日土曜日 10 時～12 時

場所：市役所 3 階政策審議室

出席者：眞野市長、永尾副市長、川本副市長、今橋教育長、大島分権政策部長、大明地教育部長、中学生 11 名、河崎総合政策課長（進行）

意見・提案など：(1)廿日市中学校「安心・安全に過ごせるまちづくり」

(2)七尾中学校「安全で住みやすい街 廿日市のために」

(3)阿品台中学校「みんなが共存できるまちに」

(4)野坂中学校「けん玉を広めるために」

(5)四季が丘中学校「みんなが利用する公園」

(6)佐伯中学校「安全な町づくりへの提言」

(7)吉和中学校「小中学校同士の交流に向けて」

(8)大野中学校「地域交流からわかるすばらしさ」

(9)大野東中学校「地域や小中学校のボランティア活動について」

(10)宮島中学校「「おもてなしの心」と「一期一会」の精神で

マイロード清掃」

(11)山陽女学園中等部「中高生の廿日市市への関心を高めるために」

1 開会

（総合政策課長）

ただ今から、中学生と市長のふれあいトークを始めます。このふれあいトークは、皆さんから、まちづくりへの意見などを自由に提案していただき、今後の市政に反映するとともに、皆さんに市政に対する理解を深めていただく機会にしたいと考えております。なお、本日のふれあいトークは、後日、会議録としてまとめ、市のホームページで公開する予定です。

その際、学校名は掲載いたしますが、お名前は掲載しないこととしますので、ご了承ください。また、会議録作成のために録音させていただくことをご了承ください。また、今

日お配りした資料の中にアンケートがありますが、こちらのアンケートにつきましては、終了後に時間を取りますので、今日の感想などを記入して、提出してください。なお、引率の先生方へもアンケートを配らせていただいております。今後の参考とするためにも、ご意見などをお寄せいただければと思います。

それでは、この会に参加しております市の出席者を紹介いたします。
(市長以下6名紹介)

(総合政策課長)
続きまして、皆さんに、自己紹介をしていただきたいと思います。

(中学生自己紹介) 11名

(総合政策課長)
元気の良い自己紹介、ありがとうございます。
次に、眞野市長がごあいさつをいたします。市長、お願いします。

(市長)
改めて皆さん、おはようございます。
今日は、よくおいでいただきました。紹介いただきました眞野でございます。ふれあいトークに参加していただき、ありがとうございます。皆さんとお話しができることを大変楽しみにしております。

本市では、地域の資源を生かし、地域と地域、人と人がつながり、助け合い、信頼し合い、それをエネルギーとしてまちづくりを進めることを基本とし、昨年度から「第5次総合計画」がスタートしております。また、協働によるまちづくりのめざす姿やルール、仕組みを定め、みんなで共有する「まちづくり基本条例」の検討を今年度から本格的に開始いたしております。

このふれあいトークで、皆さんと対話することによって、信頼関係を築き、これから先も廿日市のことを一緒に考えていけるようになれば、素晴らしいことだと思っております。

さて、このふれあいトークは平成9年度から始まり、今回で14回目を迎えます。これまでに寄せられた意見によって、各中学校の生徒会へのパソコン設置、吉和地域への移動図書館「たんぽぽ号」の巡回、子どもたち自らが企画するグリーンカーテンなどの取り組みについて支援する「はつかいちキッズ・エコチャレンジ」などが実現をいたしております。

今日は、皆さんからの提案をお聴きし、どうしたら住みよい“まち”になるかを一緒に考えていきたいと思っております。

初めて会う人が多く、緊張しているかもしれませんが、私も普段どおりに話をしますので、皆さんも肩の力を抜いて、日ごろ感じていることを自由にご意見をいただきたいと思います、ご提案

をいただきたいと思っております。どうかよろしく申し上げます。

(総合政策課長)

それでは、意見発表に移りたいと思います。市長の挨拶にもあったように、みなさんあまり固くならないように、と言っても緊張するのが当たり前ののですが、お手元にペットボトルのお茶もありますので、適宜水分を補給しながら、喉もカラカラになっていると思いますけれど飲みながら、発表してください。

では、最初は、廿日市中学校さんから発表をお願いします。

(廿日市中学校)

「安心・安全にすごせるまちづくり」

僕達は廿日市市でより安心して安全に過ごせるまちづくりをしていきたいと考えています。地域の方々は、僕達が登校するときや、下校するときなど、道路に立ってあいさつの声をかけてくださるなど、いろいろな場面で大変なお世話になっています。また僕達も地域の行事では、祭りや敬老会などに積極的に参加し、イベントを企画したり、屋台を出したりしています。生徒の有志でソーランを踊ったりもしています。さらに、今年の2月に行われた「廿ラツ廿スルあったかふれあい冬祭り」という祭りでは、廿中焼きという商品を作り、たくさんの人に喜んでいただきました。これからもこのようなことを通して、地域のみなさんとたくさんふれあい、地域が盛りあがるきっかけになればいいと思っています。

要望としては、今よりもさらに廿日市市を安全な町にするために、市内に街灯がもっと必要だと思いました。昼間明るいときはいいのですが、早くから暗くなる冬場や、夜は、2号線は明るいのですが、一本入ると暗い道もあり、特に街灯が無い道はとても暗く危険です。しかし、暗い夜道に街灯がつくと、安心して安全にその道を通ることができます。このように、暗い所に街灯を設置することは安全面で大切だと思いました。

これからも、いつも朝早くから通学路に立ってあいさつの声をかけてくださり、登校中の安全を見守ってくださっている地域の方々のあたたかいお気持ちに感謝して、僕達も心のこもったあいさつができるようにしていきたいと思います。人と人がつながっていくことを通して、安心して安全にすごせるまちをみんなで作っていききたいです。

(総合政策課長)

ありがとうございました。

それでは、市長からの回答をお願いします。

(市長)

まず、大きくは2点ありますね。1点目、人と人がつながっていくことを通したまちづくりという点について私からお答えをいたします。

街灯については副市長の方からお答えをいたします。

おっしゃるように、廿日市中学校のみなさんは、これまでも市民運動会や地域のお祭り、公民館活動など、地域の行事に参加し、地域の方と一緒に活動してこられているのを拝見

しています。みなさんが参加してくれたことで、行事が大変盛りあがったのではないかと思います。

「甘ラツ甘スルあったかふれあい冬祭り」では、「廿中焼き」という学校名がついた商品を販売されたのですね。学校の皆さんと地域の皆さんの、これまでに築かれた強い信頼関係が生み出した商品なのではないかと思います。

登校する時に、見守りに立たれている地域の方と、毎朝、「おはようございます」とあいさつを交わすことも、お互いの結びつきをどんどん強くすることだと思います。市役所は、この通学路の見守り活動に対して、青色防犯パトロール灯の配布を行うとともに、ジャンパー、たすきなどの配布を通じて、側面的に支援をいたしております。

感じておられるように、みなさんは、地域の方々にいろいろな場面で支えてもらっております。廿日市中学校のみなさんがそのように感謝の気持ちをもって、地域の方とさらにコミュニケーションを深めながら、また新たな楽しい行事を企画していけたらいいと思います。よろしくお願いします。

(永尾副市長)

はい、防犯灯については私の方からお答えをさせていただきます。防犯灯をもっと増やして欲しいというお願いでございますけれども、防犯灯設置については、地域の方々と相談をしながら、役割分担をしながら、設置をしています。お尋ねのように、暗くて、危険な場所はどこなのか、また、防犯灯の設置費や電気代もかかるので、どの場所を優先して設置したら良いのか。こうした情報につきましては、市役所よりも地域の方々が詳しいと思っていますので、地域の方々に防犯灯を設置管理していただき、経費については、市役所が一部負担という役割分担で設置をしています。

町内会が防犯灯を設置されていますので、ご提案いただきました防犯灯の設置意義と、増やして欲しいといった熱い願いについてはお伝えをし、これからも安心・安全なまちづくりに取り組んでいきたいと思っております。そして、こういったご意見があったということは、町内会の方にはお伝えしておきます。

ちなみに、防犯灯ですけれども、廿日市市全体では約 8,150、今防犯灯が設置をされております。電気代としては、1灯当たりが 3,200 円、1年間でかかります。そのうち 1,600 円、半分を市の方で負担をしております。残りの 1,600 円を町内会で負担をしております。したがって、多く設置をすればそれだけ電気代が町内会の負担ということにもなりますので、その点を町内会と相談しながらやっている状況です。以上です。

(廿日市中学校)

ありがとうございました。

(総合政策課長)

ありがとうございました。それでは次に、七尾中学校さんよろしく申し上げます。

(七尾中学校)

「安全で住みやすい街 廿日市のために」

私達七尾中が廿日市市に希望することは2つあります。1つ目は七尾中校区内の歩道を広くしてほしいということです。無理な提案かもしれませんが、以前、私は通学路を歩いているときに車や自転車と接触しそうになり、危ない思いをしたことが何度もありました。そのことは私だけではなく多くの友人も度々経験しています。事故の予防はやはり個人の意識を高めていくほかはないとは思いますが、まずはその原因となる道の狭さを改善していかねばならないと考えます。

2つ目は是非とも廿日市市全体でボランティア清掃を呼びかけてほしいということです。今は自治会等で清掃活動が行われています。例えば、これを4ヵ月に一度くらいのペースで全市民が一斉に行うようにするのです。そうすることで市民一人一人の美化に対する意識も高まり、廿日市市もより一層きれいになっていくものだと思います。また、ごみを拾うことで今まで知らなかったこの街の新たな一面に気づき、もっとこの廿日市市が好きになっていくのではないのでしょうか。

以上の2点が、現在の廿日市市に希望することです。ご検討のほどよろしく申し上げます。

(総合政策課長)

ありがとうございました。

それでは、市長からの回答をお願いします。

(市長)

では、お答えします。まず、通学路の歩道を広げることについて、「学校に通うみんなが、安全に通学してほしい」という思いは、誰もが願っていることだと思います。そのために、通学路の歩道を広げるというのも、一つの方法であると思います。

交通事故の防止については、おっしゃるように、まず、一人一人が「交通事故にあわないようにどうしたらよいか。」ということを考えながら行動することだと思います。市の取り組みとして、歩道の設置できない道路については、通学路から優先的に、道路の端を広めに取って白い線を描くなどして、限られた道路幅の有効活用を進めております。歩道の狭い箇所については、道路を整備するに当たって、幅の広い歩道を設置することとしています。また、新たに設置する道路については、車椅子が通れるように幅2.5m以上の歩道を設置をいたしております。

通学路の安全確保については、毎年、定期的にPTAの皆さんをはじめとする地域の皆さんから、通学路の危険箇所を挙げていただき、その改善に市役所だけでなく、地域のみなさんと取り組んでいるところです。

市では、児童・生徒の安全を確保することを目的として、「廿日市市子どもの安全対策推進本部」を設置いたしております。そういうことで、PTAの人、学校の先生方と、協議をしながら、その制度について優先順位を定めて整備にあたっております。しかし、予算あるいは危険箇所の場所であったり、制度であったり、また、管理するのが市であったり、県であったりというようなことで、なかなか思うように進んでおりませんが、努力していきたいと考えております。

(川本副市長)

それでは、ボランティア清掃の提案についてですけれども、みなさんがいろいろと清掃活動をされているというのは、先生方からよく伺っています。市では、毎年6月の初めに、町内会や自治会、地域の衛生推進委員の皆さんが中心となって、各地域の清掃を一斉に行うという取り組みを行っています。「市内一斉清掃」という取り組みですが、おっしゃるように、4カ月に1回、一般に行われれば本当にいいことだとは思いますが、まず、この1年に1回の市内一斉清掃に参加をしてみたいと思います。

あと、市内の一斉清掃ではありませんけれども、「海のクリーンアップ作戦」というのもやっています。7月の初めには海岸線の清掃を皆さんですするという、皆さんのボランティアで参加していただくという取り組みもやっています。

それと、旧廿日市地域では、毎月第1、第3日曜日に、町内会単位で地域の清掃、日曜清掃として取り組みをやっているところもあります。また他の地域でも、皆さんで河川清掃など、そういった活動をしているところもあります。様々な活動をされている中で、学校の皆さんも周辺を清掃されていると思いますけれども、地域での清掃活動にもぜひ参加をしていただきたいと思います。

おっしゃるように、全市民で一斉にするということは、周囲の清掃・美化に対する意識を高まりますので、それで一緒に行動するということにつながりも深まるし交流も深まってくるので、より魅力的な愛着と心の触れるようなまちづくりに非常に有効だと思います。今後、市としてもさまざまな取り組みをやっていきたいと思っていますので広報や啓発活動などをより一層取り組んでいきたいと思っています。よろしくお願いします。

(七尾中学校)

ありがとうございました。

(総合政策課長)

ありがとうございました。続きまして、阿品台中学校さんよろしくお願いします。

(阿品台中学校)

「みんなが共存できるまちに」

僕は、廿日市市を高齢者や障がい者にやさしい町にしてほしいと思います。それについて、2つ提案します。

まず、現在廿日市市で実施されている児童デイサービスについてです。他の市や都道府県の児童デイサービスは、最高年齢が18歳なのに対し、廿日市市は12歳だということを聞きました。このサービスは、僕の小学4年生の弟が利用していますが、中学生になった後にどうするのかを家庭で話すことがあります。このことは、自分の弟だけでなく、廿日市市全体の障がいを持った人達やその家族にも関わる問題です。そこで、廿日市市でも最高年齢を18歳にし、より長く支援できるような場をつくってほしいと思います。また可能であれば、その後一生支援をしてもらえるような制度をつくってほしいです。

次に、バリアフリーについてです。高齢化に伴い、公共施設にスロープやエレベーターを設置するなどしてほしいと思います。また、車椅子などを利用している人達にとって、

狭い歩道は危険です。だから、狭い道は改修したり、これから作る歩道があれば広いものを作ったりするなどしていくと、さまざまなハンディキャップを持った人達が快適に住めるような町になると思います。そのような町は、私達にとっても住み易いし、さまざまな人が共存することができていいと思います。

(総合政策課長)

ありがとうございました。

それでは、市長からの回答をお願いします。

(市長)

ご提案にお答えをいたします。お気持ちはよくわかります。

「児童デイサービス」は、子どもがもって生まれた力を発揮し、豊かに育つことを目的として、「基本的な生活習慣の確立」や「集団生活への適応訓練」などの療育を行う事業です。現在、市内にこの事業を行っている事業所は3ヵ所あり、小学校に行くまでの年齢を対象とした教室が2ヵ所、小学6年生までを対象とした教室が1ヵ所あります。

受け入れの対象年齢は、サービスを行う事業所が決めることになっており、市内では、中学生以上を対象とした事業所がないのが現状です。1つには、早い時期から支援を行うことが、子どもの成長に大きな影響を与えると考えられているからだと思います。

廿日市市は、平成20年度に関係機関、福祉団体や当事者で構成する、地域自立支援ネットワークという組織を作りました。そこでは、障がいのある人への福祉に関して、利用者から寄せられた意見や課題をどのように解決すればよいのか議論をしています。

その議論の中で出た要望に応え、平成21年度、あいプラザ3階に、障がいのある人を取り巻くさまざまな事に関する相談に対応する、障がい福祉相談センター(きらりあ)を作りました。

また、同じ場所には、子どもの発達支援センター(すまいる)もありますので、お気軽にご利用いただきたいと思います。なお、国においては、平成25年8月までに新しい総合的な障がい者の福祉制度を作るため、障がいのある当事者も参画して議論を進めています。障がいのある人やその家族の視点に立った仕組みづくりが行われるものと、市も期待しております。

廿日市市も23年度に障害福祉計画、これは、第3期になると思いますが策定をする予定でございます。以上です。

(永尾副市長)

バリアフリーにつきましては私の方から回答します。おっしゃるように、さまざまな人が共存でき、すべての人が快適に住めるようなまちは大切だし、とても良いことだと思います。1点目の「高齢化に伴い、公共施設にスロープを付けたり、エレベーターを設置してほしい」という要望についてですが、公共施設のスロープの設置ですが、市は現在、公共建築物や歩道については段差をなくしたり、スロープをゆるくしたりして人の移動がスムーズになるようにバリアフリー化を進めているところです。たとえば、通学路をはじめ団地内歩道など順次できる箇所から段差を解消したり、スロープを緩くしたりしています。

また、たくさんの方が利用する公共施設や駅は、順次エレベーター、スロープ、手すりなどの設置を進めているところです。

次に、狭い道路や歩道のない道路については、先ほど、お答えしたとおり、通学路から優先的に、道路の端を広めに取って白い線を描くなどして、限られた道路幅の有効活用を進めているところです。歩道の狭い箇所については、道路を整備するに当たって、幅の広い歩道を設置することとしています。また、新たに設置する道路については、車椅子が通れるように幅 2.5m以上の歩道を設置していく予定です。指摘をしておられるように、公共施設については、社会の構成員としてのすべての人が安全で使いやすい施設として利用できるユニバーサルデザインを目標として整備を進めています。

今後とも、市としましては、さまざまなハンディキャップをかかえた人達だけでなく、すべての人が快適に住めるような、まちづくりに取り組んでいきたいと思えます。ちなみにJRの駅ですけれども廿日市市内に6つの駅があります。このうち宮内串戸駅、前空駅についてはエレベーターがつけられておりまして、JR阿品駅には今年3月に設置しました。JR宮島口駅については来年の3月にエレベーターをつける予定です。それと残るJR廿日市駅、JR大野浦駅につきましては、ここ1、2年という訳にはいきませんが、駅舎が改修をされる予定です。それにあわせて、エレベーターを設置していきたいと思えます。それと学校ですけれども、小学校19校ございまして、このうち5校につきましては、給食用と人用、両方が使えるようなエレベーターが設置されています。それと中学校は10校ございまして、この10校のうち4校がエレベーター、人荷用が利用できるようになっております。阿品台中学校は、今年もうすでに工事が終わっているかと思えますが、人が乗れるようなエレベーターに改修がされたと思えますが、学校ではエレベーターに乗るのに先生との約束事があると思えますので、そういう約束事を守って安全に使っていただけたらと思えます。以上です。

(阿品台中学校)

ありがとうございました。

(総合政策課長)

ありがとうございました。続きまして、野坂中学校さんよろしくお願ひします。

(野坂中学校)

「けん玉を広めるために」

私は、この春1週間程「日中友好少年少女の翼」という企画に応募し、中国に行きました。その交流会で中国の男子中学生とペアになり話をしました。彼は日本のことも広島のことよく知っており、宮島やカキとともにけん玉のことが話題になりました。彼は本物の「けん玉」を見たことがありません。写真で見ただけと言っていました。中国の男の子が「けん玉」のことを知っているとは本当に意外でした。

日中友好という外国の人との交流を通して改めて日本の文化を見直すことができました。日本の文化の一つでもあるけん玉という玩具は廿日市市の名産品です。廿日市市民としてもっとけん玉を活用できないかと考えました。

「けん玉」は言葉が通じなくても国を超えて遊ぶことができ、子どもからお年寄りまで幅広い年齢で楽しむことができます。そして練習すればするほど上達していき、難しい技もできるようになります。技を習得するためには、根気と集中力が必要となってきます。皆さん、これを見てください。これは、私も小学生の時に、けん玉の技を習得するために使用していました。うまく出来たときは本当に嬉しかったです。しかし、私は、けん玉を続けるきっかけがなく、続きませんでした。今、妹が小学校でけん玉をやっています。けん玉は私達にとって、とてもいい遊び道具だと思います。

私が出会った中国の中学生のように、世界にはけん玉に興味をもっている人がたくさんいると思います。廿日市市のけん玉を日本全国あるいは世界の人々に広めるために、私は次のことを提案します。

まず、日本各地や世界から、たくさんの方が訪れる宮島もしくは宮島口に「けん玉交流館」を作ってみてはどうでしょうか。そこで実際に多くの人にけん玉を体験してもらい、けん玉の良さやおもしろさを知ってもらうのです。この交流館で外国の方と交流会を開くのもおもしろいと思います。けん玉だけでなく、お互いの国の文化を交流するいい機会になるからです。また、けん玉名人による模範演技や遊び方教室を実施したり、けん玉キャラクター「たまちゃん」を活用して、幼児がけん玉に触れるコーナーを作ったりすることも考えられます。廿日市市では、以前ガラスでけん玉のお土産を作られたと聞いています。しかし、壊れやすかったとも聞きました。けん玉でもっと親しみやすいものとして、けん玉交流館のお土産には、けん玉の飾りのついたペンや鉛筆などの文房具はどうでしょうか。私たちの筆箱にはさまざまな飾りのついたペンやシャーペンが入っています。形や大きさはさまざまですが、けん玉の形をした飾りもきっと人気が出ると思います。

次に、けん玉街灯についてです。私は夏休みに、卓球の県予選大会に出場しました。大会会場は「びんご運動公園健康スポーツセンター」でした。会場に着くとすぐ、街灯に目が行き、普通の街灯と違いライトの部分がサッカーボールの形になっています。思わず見入ってしまいました。スポーツセンターの象徴となるものだなと、すぐにわかりました。これをみて廿日市市にも「けん玉の町」と、すぐにわかるものがあればいいなあと思ったのです。それで私は「けん玉街灯」を提案したいと思いました。これは、私の考えた街灯です。電柱にけん玉をくっつけた形にして、けん玉の玉の部分をライトにするのです。廿日市駅前や駅前商店街、宮島など多くの方が集まる場所に設置してみてもどうでしょうか。先ほど言ったけん玉交流館ができたなら、その前にも設置してもらいたいと思います。今、商店街などでけん玉のキャラクターを掲げた街灯を見ますが、けん玉そのものの方が絶対に話題になると思うし、けん玉を知らない人や、廿日市市を訪れた人に「廿日市市はけん玉の町」と印象づけることができると思います。

最後に「けん玉大使」について提案します。小中学生のなかで、けん玉の技術検定を行い選ばれたけん玉チャンピオンを「けん玉大使」として、外国に派遣してはどうでしょうか。そうすれば、けん玉を通して、世界の人と交流することができます。また、今現在、廿日市の中で、けん玉で遊ぶ小中学生が少ないようです。この取り組みを通して、けん玉を支える若い名人が、廿日市の中に多く誕生してくるのではないのでしょうか。このようなことを考えたのは、初めに述べた中国の人との交流を経験したからです。けん玉を世界に広めることは、ただ単に、けん玉を知ってもらうということではありません。けん玉を媒

介として、文化の交流をするのです。

廿日市市のけん玉が、市から県へ、県から全国へ、そして世界へ。けん玉の広がりと共に、文化の交流ができる日を願い、今回の提案としたいと思います。ありがとうございました。

(総合政策課長)

ありがとうございました。

それでは、市長からの回答をお願いします。

(市長)

けん玉を広めることについて、詳しい提案がありました。1点目は私から、2点目は教育長からお答えをいたします。

まず、けん玉を媒介とした文化交流、けん玉交流館、けん玉大使等の提案についてです。この春、中学生という感性豊かな時期に中国で交流したことは、外国や自分の国の文化に目を向ける素晴らしい経験になったと思います。

海外の人との交流を進めていくには、もちろん相手の国の言葉や文化を理解することも大切ですが、まずは、自分の国やまちの文化を良く知り、誇りを持って伝えることがとても大切だと思います。けん玉は「木工のまちはつかいち」を象徴する特産品であり、言葉が通じなくてもできる、世界の人々との交流のために有効な方法だと思います。

市では、ニュージーランドのマスタートン市と姉妹都市を提携しており、毎年、市内の中高校生がお互いの国を訪問し、学校訪問や文化体験など様々な交流を行っています。けん玉はニュージーランドの子どもたちにプレゼントしていますが、いつも人気があります。また、廿日市市出身の方がフィリピンの子どもたちへ使われなくなったけん玉を贈ったり、「けん玉名人」がフィリピンでけん玉を教えたりする活動を通して、世界の人々へもけん玉が広がりつつあります。

さらに、平成20年4月から2年間、けん玉で市の魅力を各地に紹介していただいた観光親善大使の方もおられます。この方達が「けん玉大使」の役割を果たしている面はあり、文化交流に大きく貢献しています。

将来的には、国内外からたくさんの方が訪れる宮島周辺に、「けん玉交流館」のような施設があったら良いとは思いますが、まずは、けん玉先生によるけん玉教室を開催している木材利用センターなどを活用して、文化交流を広げていくことも一つの方法ではないかなと思います。

これからは、若いみなさんが、廿日市の文化を世界へ広げていっていただくことを期待しています。

毎年秋に、さっきおっしゃったように、宮島で行われているお砂焼き祭りで、けん玉の実演や体験、販売を行っております。春のはつかいち桜まつりでは、けん玉大会が開催されています。けん玉キャラクターの「たまちゃん」も登場し、小さな子どもたちの人気を集めています。また、木材利用センターでは、毎月1回、けん玉先生によるけん玉教室が行なわれています。けん玉をデザインしたお土産についても、以前、さっきおっしゃったとおり、ガラス製のストラップなどを廿日市市の観光協会で作って、販売していましたが、

玉と胴をつなぐところが壊れやすかったことから、販売は中止となりました。しかし、いろいろ工夫して、廿日市らしいおみやげを作っていきたい、また、ご協力をいただきたいと考えています。

来年度から、できれば、小学校の入学時にけん玉を記念品としてお配りするようにも考えてみたいと思います。それから、現在廿日市駅の北側を開発しております。その後方側の交差点に街灯がありますが、その街灯にはけん玉を使用しておりますし、駅北にそういう活用を考えております。

(川本副市長)

街灯の設置についてまた詳しく私からお話ししますけれども、おっしゃったように廿日市の中で、わあっと思えるような街灯があると、廿日市のこともみなさんにもっと広がるし、魅力も広がってくるので、非常にいい提案だと思いますね。今市長がおっしゃったように、JR廿日市駅の北側の、駅北にね、皆さんにも資料をお渡ししていますが、最後の方に写真がありますけれど、これはちょっとご提案とは違うんですけども、ちょこんとけん玉が乗っている形のデザインで、街灯を作っております。これは、駅北の一番メインの通りの街灯にこのようなデザインでやっています。けん玉に関してはですね、街灯だけでなく、ご存じでしょうか、新宮中央公園はけん玉公園という名前になっていますけれど、そこにもけん玉のデザインをした遊具やモニュメントが置いてありまして、廿日市としましても、いろいろけん玉に関しては一つの大きな伝統文化と認めているいろいろなところで活用しているところです。

今後、新たに道路整備を行うときには、こういったけん玉も含めて廿日市の象徴となるようなものをデザインしていくのは大切なことだし、検討してみることも十分考えられると思いますね。

また、駅前通りへのご提案ございましたけれど、なかなか駅前通りは狭いので改修するというのは難しいところもあるんですけども、市民のみなさんの理解を得られれば将来的にはそういうことも可能だし実現できればとてもいいことだと思います。おっしゃるように、けん玉そのものではなくて廿日市に伝統文化、歴史というものがありますから、そういうことを、より廿日市の良さを広く知ってもらうことは非常に大事なことなので、活性化させる方法として十分に考えていきたいと思います。以上です。

(野坂中学校)

ありがとうございました。

(総合政策課長)

ありがとうございました。続きまして、四季が丘中学校さんよろしく申し上げます。

(四季が丘中学校)

「みんなが利用する公園」

私は宮園という団地に住んでいます。宮園には宮園公園という大きな公園があります。ここでは、多くの人達がスポーツを楽しんだり、遊んだりしています。そして、地域の人

達だけでなく、他学区の陸上部やサッカー部なども訪れます。私も陸上部に所属していて、放課後や休日に利用します。ここは、他の公園と違い、大きなトラックや芝生の生えたフィールドがあります。だから練習にもってこいです。しかし、放課後急いで帰っても練習をするころは暗くなっています。その時間帯は多くの人達がいますが、暗くて顔もよく見えない場所もあります。そこで私は、宮園公園に外灯を増やすことを提案します。

外灯を増やすと、公園内がより明るくなり、他の人の顔やいる場所などを確認できたり、走るコースも確認しながら走れたりできます。なにより、暗くなっても安心して安全に利用できるようになると思います。

また、公園のある場所は、小学校やテニスコート、山陽自動車道の近くで、周りに住宅がありません。そのため、夜、多少明るくなりすぎても問題ありません。また、いくら遅いといっても12時や1時まで宮園公園にいる人はいないと思います。7時から10時までなど時間を指定すれば、電気の無駄遣いにはなりません。

宮園公園に外灯が増えれば、夜の利用も可能になり、利用者も増え、市民の体力向上にもつながると思います。以上により、私は、宮園公園に外灯を増やすことを提案します。

(総合政策課長)

ありがとうございました。

それでは、市長からの回答をお願いします。

(市長)

それではご提案にお答えをいたします。

公園には、休息、そして運動やレクリエーションに利用するだけでなく、環境保全や災害時の避難場所、火事の延焼防止のスペースとしての役割も持っています。

そして、このいろいろな役割を持っている公園は、機能に応じて特色を持っています。

スポーツができるように整備してあるのが、スポーツ公園です。スポーツの目的に応じた基準照度、明るさの程度ですが、照度を保つため照明設備を備えています。そのため、設備の維持管理のため施設の利用にあたっては使用料が必要となります。

家の近くにあり、比較的小さな子どもが遊びやすい公園を街区公園と言います。

おおむね1小学校区の範囲内で、広場が大きく思いっきり走り回れる公園を近隣公園と言います。街区公園・近隣公園は、使用を特定せず、誰もが休養・休息や教養、文化活動等さまざまな余暇活動の場として、あるいは子どもの健全な育成、地域のコミュニティ活動の場としてなど、多様な利用ができる場所となっています。

日ごろ利用されている宮園公園は、広い芝生広場や400mのトラックが整備されている、市内でも珍しい近隣公園です。開園直後から、トラックを利用したジョギング愛好者も多く、これまでに利用者等からの要望を受け、外灯の増設や点灯時間の調整を行い、昼間だけでなく夜の利用についても、ランニングができる程度の照度、明るさを確保した公園となっています。宮園公園は、利用者の皆さんに楽しんでもらえ、体力向上が図れるようにしています。スポーツ公園とは目的が異なりますが、これからもご利用いただきたいと思っています。

明るさの程度については、今の程度で活用していただくのがいいのかなと思います。

(四季が丘中学校)

ありがとうございました。

(総合政策課長)

ありがとうございました。続きまして、佐伯中学校さん、よろしく申し上げます。

(佐伯中学校)

「安全なまちづくりへの提言」

私が廿日市市に望むことは、誰もが安全に使える「歩道環境」を整えてほしいということです。廿日市市の歩道をバリアフリーにしてはどうでしょうか。そうすることにより、お年寄りや障がいのある方、小さい子ども、みんなが安全に歩道を歩くことができ、運転手も安全に車を運転することができます。誰もが安全に使える「歩道環境」にし、全ての人に優しいまちづくりをするためには、バリアフリーは必要不可欠です。

例えば私の住む佐伯では、学校への登下校で何度も道路を横断しなければなりません。横断するところは、車から見えにくく今までに何度も事故が起こっています。また、歩道がないところもあり、道路も狭く、特に朝夕では、車の交通量も多くとても危険です。歩道だけでなく、校舎などにも段差が多いです。さらには、佐伯にはお年寄りが多く、このような「歩道環境」では大変危険です。健康な私たちでも危険なのに、お年寄りや障がいのある方に、優しく安全なはずがありません。誰もが安全に使える「歩道環境」を整えて、誰もが安心して住める町にしてほしいです。以上です。

(総合政策課長)

ありがとうございました。

それでは、市長からの回答をお願いします。

(市長)

ご提案にお答えをします。廿日市市では、提案されるような「安全で快適に暮らせるはつかいち」を目標の一つとして「まちづくり」を進めております。その取り組みとして、駅や公共施設およびその周辺道路のバリアフリー化や歩道を新しく造ったり、先ほどの回答と重複しますが、既存歩道の改善、さらには現在ある道路へ転落防止柵、道路照明の設置などを進めております。

現在、住んでおられる佐伯地域における「歩道環境」については、おっしゃるように、道路を何度も横断しなければならなかったり、歩道が無いところもあり、危険な箇所も多くあります。

これらの改善のため、主要な県道の歩道整備については、広島県にお願いをし、友和地区の「友和小学校前付近」や「永原集会所北側付近」などの歩道整備を進めてもらっています。

また、市道でも、友和地区の「マックスバリュー横付近」や「光ヶ丘団地西側付近」などの歩道整備を進めております。

新しく歩道を整備するには、土地を購入したり、家屋を移転したりするため、土地所有者の協力や多額の費用が必要となり、すぐに整備することは難しい状況ではありますが、市としましても、地域の皆さんが安全に通行できるよう歩道整備や既存歩道の改善などを計画的に進めるとともに、引き続き、広島県に、現在整備をおこなっている箇所の整備促進と未整備箇所の早期事業化をお願いしていきたいと考えています。また、皆さんには、歩道の無い道路を通行する時や、道路を横断する際には、周りに十分気をつけて交通事故のないように、自らも気をつけていただきたいと思います。この佐伯地域については、歩道の整備が遅れておりますが、緊急の課題というように私たちも捉えております。今のような、財源の問題、そして、家屋の移転をしたりということもあります。なので、なかなか難しいところがありますが一生懸命取り組んでいきたいと思っております。

(佐伯中学校)

ありがとうございました。

(総合政策課長)

ありがとうございました。それでは続きまして、吉和中学校さん、お願いします。

(吉和中学校)

「小中学校同士の交流に向けて」

私達の吉和小中学校は、昨年4月、小中一貫教育を進める学校として、宮島学園に続いて、通称「学びの森吉和学園」がスタートしました。今年で2年目を迎え、昨年以上に児童生徒が協力し、よりよい学校づくりに毎日がんばっています。昨年は、1年目ということもあり、児童生徒が一つの校舎で学校生活を送る上で、いろいろな問題がありました。今年はその一つ一つの問題を私たち児童生徒会の立場で、解決できることは解決していこうと取り組みを進めています。今年、「日本一仲の良い小中学校」を合い言葉に、昨年以上に児童と生徒が心からつながっていけるように「Link」という児童生徒会目標を掲げました。昨年1年間でいろいろな形はできあがったように思いますが、児童と生徒のつながりは薄かったように思います。そこで、ひまわりの種植えや釣り教室など児童と生徒がペアを組むなど、新たな取り組みを行いました。児童と生徒のつながりを意識して、楽しく取り組める内容を考えています。しかし、私たちの取り組みも手探りのものばかりです。

私は、将来的には、同じ小中学校である宮島学園や新しく小中学校としてスタートすると聞いた大野小中学校や小方小中学校とお互いの取り組みを交流し合い、よいところをどんどん取り入れていたらいいと思います。そのために、今、私たちの代で出来ることに全力を注ぎ、吉和ならではの良さを生かした小中学校にしていきたいです。近い将来、後輩たちがこの夢を実現してくれることを信じて今を頑張りたいと思います。

最後に市長さんに一つ質問があります。廿日市市では、近い将来、小中一貫になる学校はどれくらいありますか。教えてください。

(総合政策課長)

ありがとうございました。

それでは、市長からの回答をお願いします。

(市長)

ご質問にお答えします。児童、生徒のつながりということですが、あなたは神楽をやっている？

(吉和中学校)

いいえ。私は神楽はやっていないんですけど、昨年ここに来させていただいた先輩はやっていました。

(市長)

そうですね。廿日市市では、中学校を卒業するまでにはこんな生徒になってほしいという姿を目標として、小学校と中学校が9年間を見通した同じ目標を持って教育を行う必要があると考え、市内の全小・中学校で小中一貫教育を推進しています。

なぜ、小中一貫教育を推進するかというと、「みなさんの能力や個性が一層伸びる」、「コミュニケーションの機会が増える」、「学校やみなさんと地域との連携が一層深まる」という観点から考えているからです。

現在、吉和小・中学校や宮島小・中学校で、校舎一体型の小中一貫教育を行っていますが、小学校と中学校が生活をともにし、工夫を凝らした取り組みを行うことで、お話にあるようなプラスの効果が学校生活のさまざまな場面で表れております。ある先生から、「小学生にとっては、中学生の姿を近い将来のお手本として学んだり、中学生にとっては、よきお兄さん、お姉さんとして、小学生に遊びや勉強を伝えたり教えたりするようになった」と、その成果を伺っております。これからも、みなさんのアイデアを活かした取り組みやその成果を他の小中学校区へ発信して、廿日市市の小中一貫教育を推進する牽引役としてがんばっていただきたいと思っております。ひまわりの種植えなど、川本副市長はよく植えに行かれますと思っておりますが、今年は、去年よりはやや良く咲いていませんが、みなさんや、地元のかたやボランティアの人が一緒に植えられるということで、天候が不順でなかなか思うように咲かないこともあります。しかし、皆さんが懸命に世話をされていることが良く伝わってきます。小中一貫については教育長がおりますのでお答えします。

(教育長)

では私の方から、お答えさせていただきますが、ご意見の中に「日本一仲の良い小中学校」を合い言葉に、協力してよりよい学校づくりに、毎日頑張っておられるということを知りまして、大変感激しております。はつかいちのまちづくりの一つのキーワードに「人と人がつながる」という言葉がありまして、市長さんが最初に挨拶されましたけれども、学校の中でも、子どもと子どもがつながる。先生と子どもがつながる。小中学校の一貫校の中でまさに児童と生徒がつながるといって、非常に大切なことですが、それが吉和の中で小中学校の児童生徒のつながり、交流がより深まっているなあと感じました。本当に嬉しく思っております。

吉和小中学校は他校との交流も、今、行われておりますね。宮島小学校とは、チャレン

ジ学校づくり支援事業として、お互いの学校を訪問し合って交流活動されて、活動後も作品の交流など継続的な取組みを進めておられますし、中学校でも、宮島での集団宿泊学習で、宮島の歴史や文化、そういったことを学び、自然に触れながら、交流を深めておられますね。そういう交流は非常に、私は大切であろうと思います。

質問の小中一貫校を予定している学校でございますが、ご存じのように吉和・宮島地域以外の中学校区では、例えば七尾中学校区では七尾中学校に対して原小学校、金剛寺小学校、平良小学校といった連携型の小中一貫校を行っているのですが、そこで中学校の先生が小学校に出向いたり、小学校の先生と一緒に授業を行ったり、小学校の児童が中学校へ行って、中学校の授業を受けたり部活動を体験したりするなど、連携や交流に工夫を凝らしております。

平成 27 年 4 月に開校予定なのが、大野中学校と大野西小学校が小中施設一体型の小中一貫校となるよう、今、準備をしております。宮島小中学校と吉和小中学校の取組みが、小規模でありながら皆さんが苦労した成果が、どういう取組みをしてきたかというのが非常に参考になってくるだろうと思いますので、しっかりこれからもいい学校づくりに取り組んでもらえればと思っています。その他の中学校区では、これからの取組み具合ですとか、敷地や校舎などさまざまな条件がありますので、そういったことも考えながら、一体型への移行の可能性も検討していきたいと思っております。以上でございます。

(佐伯中学校)

ありがとうございました。

(総合政策課長)

ありがとうございました。続きまして、大野中学校さんよろしく申し上げます。

(大野中学校)

「地域交流からわかるすばらしさ」

私たちの学校では、昨年度から学校と地域が協力して、自分たちが住む地域を皆できれいにする取組みを行っています。これは、各地区ごとに分かれて、地域の方と一緒に清掃をすることで、日ごろ交流する機会が少ない地域の方とコミュニケーションをとるというものです。今年度もこの地域清掃が行われたのですが、今日はその時にあった出来事をお話したいと思います。私は学校前に流れる川の清掃を担当していたのですが、その時地域の方から「この川がどうして『毛保川』と呼ばれているか知っているか」と尋ねられました。私はいつも目にしている川なのに、その名前の由来を知らないことにショックを受けました。そして、その時に初めてなぜ毛保川と呼ばれているか知ることができました。

『毛保』とは、水の中で植物が育つことを指すそうです。この川の中に植物が育っていることから川の名前が毛保川になったそうです。この時に私は自分たちが住む地域のことをまだまだ知らないと感じ、もっとよく知りたいと思うようになりました。

この体験から、私は廿日市市眞野市長様に次のことを提案いたします。廿日市市に住んでいる人たちに、もっと自分の地域のことを知る機会を増やしていただきたいと思います。この取組みによって自分たちの地域の良さを知り、行事などに積極的に取り組むことで、

もっと地域が活気づくと思います。以上の考えから、私は地域と学校との交流を提案します。終わります。

(総合政策課長)

ありがとうございました。

それでは、市長からの回答をお願いします。

(市長)

ご提案にお答えをいたします。

廿日市市には、それぞれの地域にすばらしい歴史や文化、自然があります。そのことについて、学校でもたくさんの方を学んでいると思います。例えば、総合的な学習の時間において、地域にお住まいの方をゲストティーチャーとしてお招きし、地域に伝わる歴史や文化を学んだり、自分たちで調べたことを地域の方に聞いていただいたりすることで、自分の町を好きになり、誇りを感じることに繋がっているかと思います。自分が生まれ育った町を大切に思うことは、本当にすばらしいことです。地域について知る機会を増やして欲しいとのことですが、各地域の市民センターなどでは、行事だけでなく「歴史講座」など地域にかかわる講座や催し物を行っていますので、参加してみたいはいかがでしょうか。また、学校の図書館には、地域の歴史の本が置いてありますので、読んでみてください。廿日市市は、市民主体の協働による、みんなで幸せを実感できるまちにしていきたいと考えています。そのために、最も大切なことは、人と人、地域と地域、人や地域と市役所の「つながり」です。提案をされているように、地域と学校の交流も、より一層、盛んになり、もっと、つながればよいと考えています。そういうことで、大野中学校、西小学校、学校支援本部も立ち上がって活発に活動されており、支援もされており、非常により地域との連携のとれた学校だと思っております。以上です。

(大野中学校)

ありがとうございました。

(総合政策課長)

ありがとうございました。続きまして、大野東中学校さんよろしく申し上げます。

(大野東中学校)

「地域や小中学校のボランティア活動について」

私は、廿日市市と廿日市内の小中学校でのボランティア活動について提案をしたいと思います。大野東中学校では、毎年夏に生徒や保護者が協力して、校内での清掃活動を行っています。そして、今年から校内での清掃活動だけでなく校外に出て、生徒が保護者や地域の人達と協力して、自分達の住んでいる地域での清掃活動を行いました。

このような清掃活動は、町を美しく保ってくれます。そして、なにより協力しあうことで人との関わりが深くなり、まちのことを知るチャンスとなります。

このように町や人の関係を美しくするためには、市民の一人一人が意識し、活動に取り

組むことがとても重要だと思います。

そのためにも廿日市市や廿日市市内の小中学校で、ボランティア活動を行う機会を作ってみてはどうでしょうか。

たとえば、数カ月一度、地域で清掃活動を行ってみてはと呼びかけてみてはどうでしょうか。

その他にも小中学校でのボランティア活動として、休日などを利用し、学校内や校外、特に通学路などいつも使わせていただいている所で清掃活動をすることによって、活動を通して交通マナーや郊外の危険な場所への配慮などもできると思います。

このことを踏まえ、地域や小中学校でのボランティア活動の呼びかけやごみ袋の提供をしていただけませんか。以上で私の廿日市市、廿日市市内の小中学校でのボランティア活動についての提案を終わります。

(総合政策課長)

ありがとうございました。

それでは、市長からの回答をお願いします。

(市長)

ご意見にお答えします。

まず、大野東中学校の皆さんや保護者の皆さんが協力して、学校内で行っている清掃活動に対しまして、お礼を申し上げたいと思います。自分たちの学校に愛着を持ち、長く、綺麗に使っていただくためにも、非常に意義のある活動だと思います。

学校内だけでなく、地域の人たちと協力して、自分たちの住んでいる地域での清掃活動を行おうと計画していることは、地域にとって本当に重要な活動だと思います。

言われるように、中学生の皆さんと地域の方々が協力することにより、人との関わりが深くなり、絆が生まれ、より素晴らしいまちづくりに繋がります。

七尾中学校さんからの質問の回答の際にも申しましたように、廿日市市内では、さまざまな清掃活動が行われていますので、是非、皆さんも参加していただきたいと思います。

市としても、こういった活動の際には、ごみの収集車の手配やごみ袋などの必要な資材を提供するなどの支援を行っていますので、ぜひ地域の方々と協力して清掃の輪を広げていただきたいと思います。

それぞれの地域を、地域の皆さんできれいにさせていただくことで、生活のしやすい快適なまち、住んで良かったと思えるまちになればよいと思います。

(大野東中学校)

ありがとうございました。

(総合政策課長)

ありがとうございました。続きまして、宮島中学校さん、よろしくをお願いします。

(宮島中学校)

「おもてなしの心」と「一期一会」の精神でマイロード清掃」

僕たちの学校は、学校の校訓を踏まえて「おもてなしの心」と「一期一会」の精神を大切に、宮島の良い所を守りながら変えていく取り組みをしています。その中で決まった今年の児童生徒会スローガンは、「千利休になろう～おもてなしの心を持ち、人との出会いを大切に作る～」です。このスローガンのもと、取り組んでいることを2つ紹介します。

1つ目は、「宮島おすすめスポット」です。これは、本校でやっている新教科の一つ地域伝統科の中で地域の方々に昔の宮島の話をつかがい、それをもとに自分達が今まで知らなかった宮島を写真に撮り、その良さを紹介するものです。本校の小中学生全員が一枚の「宮島おすすめスポット」を作りました。その中で良い物は宮島棧橋や観光協会に届けて、宮島に来られた観光客のみなさんに見てもらいたいと思っています。

2つ目は「マイロード清掃」です。これは、広島県の行っている「アダプト活動」の一環の取り組みで、自分達の通学路を「マイロード」と宣言し、責任を持ってきれいにするという活動です。本校では、本校前の宮島棧橋から宮島社会福祉センターまでの道を「マイロード」として宣言し、児童生徒会執行部がリードして清掃活動を行っています。今年も小学1年生から中学3年生までが一緒になって、通学路への感謝の気持ちと、この道を通る全ての人たちへの「おもてなしの心」と「一期一会」の精神で、精一杯取り組んでいます。できれば、ぼくたちの行っている「アダプト活動」が、他の学校や地域に、もっと広がればいいと思っています。

僕たちの住んでいる宮島は、世界遺産の島です。この宮島の歴史や伝統、そして自然を守るため、自分達のできることを一生懸命やっています。しかし、それだけでは、この宮島は守れないと思います。僕たちも頑張りますので、大切な文化遺産が無くなるように、廿日市市の力添えがあればありがたいです。

(総合政策課長)

ありがとうございました。

それでは、市長からの回答をお願いします。

(市長)

ご意見にお答えをします。

宮島には、年間346万人、観光客が訪れます。宮島棧橋にある観光案内所では、観光客の皆さんのために、宮島の主な観光スポットを紹介した「宮島の案内絵図」や「宮島観光リーフレット」などを作成し、配布しております。

宮島に暮らしている方々にお話を聞いて、宮島で学んでいる皆さんが力を合わせて作った「宮島おすすめスポット」は、現在配布しているパンフレットには紹介されていない、宮島の魅力も、たくさん紹介されていることであらうでしょう。是非、今後のパンフレット作成などの際に活用、利用させていただきたいと考えています。

平成20年度に実施したアンケート調査では、観光客の皆さんが宮島に滞在する時間は、8割近くが5時間未満でした。皆さんの「宮島おすすめスポット」により、宮島の魅力をもっと伝えることができ、宮島に滞在する時間が伸びることを期待をいたしております。

宮島に住んでいるみなさんが、「宮島」の歴史、伝統や自然を守るために、自分たちができることを一生懸命にやっけていこうということは素晴らしいことであると思います。

廿日市市では、市のめざす姿を「世界遺産を未来につなぎ、多彩な暮らしと文化を育む都市・はつかいち」として、まちづくりに取り組んでいます。私たちの宝を未来につなぐため、一緒にがんばっていきたくと思います。

観光客数は昨年、史上最高であり、また今年度も順調に推移していて、昨年をやや上回っているという状況であります。また、再来年、24年、2012年には大河ドラマ、NHKで平清盛が放映されるということで、今年中には台本を作って、来年の8月ごろから撮影に入るとということで、再来年の1月から放映ということにして、また宮島がにぎわうと思います。是非、千利休の心を、おもてなしの心を、地域全体に広がり、地域全体が元気な町になるようにそれも一つのきっかけとしたいと思っております。

(副市長)

アダプト活動についてお答えします。

宮島小・中学校の児童・生徒の皆さんが、学校の前の県道を清掃する、「マイロード清掃」と呼ばれる活動に参加をいただいておりますことを、素晴らしいことだと思います。また、生徒会活動の一環として、宮島に来られる方々へのおもてなし、そういった心を持って接しておられるということ、宮島小・中学校の児童・生徒の皆さんの心の温かさに触れたようで、本当に感動です。「アダプト活動」につきましては、市の中でもさまざまな道路や公園などについて、活動を広げているということです。宮島中学校さんのところは県道ですね、我々がやっている、管理している市道についても14の団体がアダプト制度という中で、そういった公共施設の清掃活動や美化活動をやっていただいておりますので、こういった活動をもっともっと広げていきたく思っております。

先ほど市長がおっしゃったように、平清盛が再来年にNHKで放送されるとなると、より多くの方が宮島に、たくさん来られますから、そういったおもてなしの気持ちを持って、きれいな宮島というものをみなさんに見ていただきたいなと思います。

それと、来年には水族館も8月にオープンいたします。是非、皆さんに新しい水族館に来ていただきたいですし、宮島中学校さんには皆さんを温かく迎えてもらいたいなと思います。よろしく願います。

(宮島中学校)

ありがとうございました。

(総合政策課長)

ありがとうございました。市長の冒頭の挨拶にありました、先ほどの回答の中にもありました総合計画について、お手元に概要版をお配りしておりますので、持ち帰って、家で、また学校でもご覧ください。最後になりますが、山陽女学園中等部さん、よろしく願います。

(山陽女学園)

「中高生の廿日市市への関心を高めるために」

廿日市市で企画されていることはたくさんあります。市のホームページを見れば一目瞭然です。しかし、私たち中学生は市のホームページを見る機会はほとんどなく、私たちは市でどのようなことが企画されているのかあまり知りません。そこで、私は中学生の市への関心が高まるように、次のことを提案します。1 つ目は中学生や高校生に見てもらえる広報づくりです。市報に中高生向けのスペースをつくり、そこで中高生向けに市が企画している情報をのせることによって、その企画のことを知る人も増えると思います。他にも市長さんに質問するコーナーや、一人の中高生について特集するのもおもしろいと思います。市の広報の一つに「ヤングまなびすと」というものがありますが、それは各家庭に配られるものではないので、中高生の目につく機会が少ないと思います。だから一番身近で目につきやすい市報の一部にスペースを作ることが大事だと思います。2 つ目はラジオやテレビを使うことです。例えば FM はつかいちの中の番組に中高生向けの番組を作って、そこで同じように市の企画の情報などを流せば、もっと市に関心を持つ中高生が増えると思います。それから、身近に感じていることなのですが、中高生が望んでいることは、勉強スペースの増加です。あいプラザを利用する学生が多いのは安心して学生が利用できる環境が整っているからだと思います。公民館ではその環境が整っていません。だから、あいプラザのような安心して利用できる場所が増えればいいなと思います。青少年夢プランなど、廿日市市には魅力的な活動が行われていますが、それは身近ではなく、あまり知られていないことが現実だと思います。そこでこのようなことをより多くの人に知ってもらうためにも先ほどの意見が実現されたらいいなと思います。

(分権政策部総合政策課長)

ありがとうございました。

それでは、市長からの回答をお願いします。

(市長)

ご提案にお答えします。

廿日市市への関心が高まるように、市の広報紙に、中高生向けのページを作ったり、FM はつかいちで中高生向きの放送を行ってはどういう提案ですね。

次代を担う中学生の皆さんが、この廿日市市への関心が高まることを考えていただいていることに大変心強く思います。

まず、広報紙についてですが、今、市の広報紙は毎月 1 日の特集号と 15 日のお知らせ号の 2 回、皆さんの家庭にお届けをしています。市の施策などを分かりやすくお知らせする、市民にとって一番身近な市役所の窓口であると考えています。

1 日号では、その月に一番伝えたいことや、重要なことに興味を持って読んでもらえるよう、「特集」として、分かりやすく市民の方にお伝えしています。

例えば、今年の 4 月号では、金剛寺小学校での授業で行われた「百年後の未来予想」という取り組みを取り上げたり、7 月号では、佐伯高校と佐伯中学のアーチェリー部を取り上げたりと、中高生にも身近な話題を特集をしています。

このように機会を捉えて、中高生にとっても身近な話題を特集として提供していきたい

と考えています。限られたページ数の中で、今後も中高生も含めた、より多くの市民の皆さんに興味を持って読まれるような広報紙づくりに努めますので、中学生の皆さんも「広報はつかいち」を読んでいただきたいと思います。

また、皆さんのご提案で、市長に質問というのがありますが、そういうことをやることによって、中高生の方が身近に広報紙を感じたり町づくりに関心を持ってもらうということで一つの良い提案として検討をさせていただきたいと思います。

(永尾副市長)

私の方で、テレビやラジオで中高生向けの放送ということについてお答えします。

「ヤングまなびすと」あるいは「青少年夢プラン」等々といった若い人向けに広報しておりますが、そういったことを良く承知しておいでで感心いたしました。

先ほどありました、FMはつかいちについてですが、平成20年2月から放送が開始されております。地域限定されておまして、廿日市・大野・宮島、同じ廿日市の中でもこの3地域、従って吉和・佐伯地域にはこの放送が入っておりません。このFMを利用して、広報紙に掲載した情報、あるいは、それ以外の市からの情報をタイムリーに流すことや防災行政無線の戸別屋内受信機が配置されていない廿日市・大野地域の災害時緊急放送への対応などに活用したいと考えています。

現在、市からのお知らせやイベント情報などをFM放送へ委託して、月曜から金曜日の朝、この朝というのは朝7時35分からの放送です。そして昼13時、そして夕方6時の3回、そして土曜日は朝の9時の1回、各15分間ずつ放送しています。中学生の皆さんにも関係する行事への参加募集などのお知らせもありますし、市内のイベント情報もありますので聞いてみていただきたいと思います。

なお、FMはつかいちでは、放送時間の関係などから、今は30代以上のリスナー、つまりFM放送を聴いておられる方を主な対象と考えているということでしたが、大学生のパーソナリティ、つまり放送を担当する人、レコードをかけながらお喋りをする人のことですね、パーソナリティを採用されて、若い人たちにもっと聞いてもらえるよう努力をしているとのことでしたので、ご報告しておきます。

最後に、市のホームページのことですけれども、市民のみなさんに市の行事や計画の紹介、観光イベントなどのお知らせをしています。中高生の方々にもわかりやすく、充実をしていきたいと考えています。これからの市の広報にも注目をしていただきたいと思います。

(川本副市長)

それでは、勉強スペースの増加のことについてですけれども、あいプラザは確かに中高生のみなさんに使っていただいております。広々としたスペースで、おっしゃったように安心して使えるスペースだと思います。

一方、市民センター、公民館なんですけれども、これも皆さんが、地域の人々や中高生も使える施設ではあるんですけれども、多少狭いということもありまして、共同で使える部屋はありますので、より活用をいただけるかと思います。中高生の皆さんがね、勉強が気持ちよく出来るスペースがあれば良いのですけれども、なかなか今の市民センターなど

施設を改修して広くするということもお金のかかることで、すぐにはなかなか難しいことです。また、そういう専用の施設を造るというのもすぐには難しいんですけども、新しく公共施設を作るときには、中高生の皆さんが利用しやすいような、そういった施設づくりに努めていきたいなと思います。したがって、現状は、今あるあいプラザなどを利用させていただく、ルールを守って上手く利用させていただくということが大事だろうなあとと思います。市全体としても、中高生のみなさん、あるいは小学校のみなさん、小中学校のみなさんが一生懸命勉強できる環境作りに努めていきますのでよろしくをお願いします。以上です。

(山陽女学園)

ありがとうございました。

(総合政策課長)

ありがとうございました。以上で皆さんからの意見発表、意見交換を終わりにして、フリートークに入りたいと思うのですが、だいたい10分間くらいを予定しております。皆さんからのご意見に対して市長、副市長が回答をしたわけですが、もう少し聞いてみたいということや、市長ともう少し別の話をしたい、ということがあれば手を挙げていただきたいと思います。

(野坂中学校)

野坂中の周りで、地下道で遊んでいる跡がすごくあって私が中1の時に地域安全マップを作ったんですけど、それ以前は落書きやごみがすごくあって、通学路としてはちょっと怖いなというのがあったんですけど、ここ1~2年ですごく落書きが減ってごみも減って、とてもきれいになって、通学路も朝気持ちよく登校できて、嬉しいなと思っています。ありがとうございます。それで、また違う話なんですけれど、私は地御前に住んでいますが、管弦祭で地御前神社の前の地御前海岸に船が来るんですけど、年々屋台の店とか人数が減ってきているので、是非、ホームページとかCMとかで宣伝していただけないかなと思っています。

(市長)

管弦祭、あるいは、玉取祭とか、20年、30年前は非常に多くの人に参加しておったのがちょっと寂しく、歴史伝統文化が寂しくなっているのですが、地御前には、「やぶさめ」といって、馬に乗って矢を射ることが行われているようですが、なかなか後継者がいないということで、宮島の人にも憂いているという状況にあるようですが、管弦祭は四国からも九州からもおいでいただいているようですが、最近は行事を見る人も少なくなっているということで、寂しくなっております。この伝統ある文化をどのように守っていくか、青年だけでそれが復活を、元気のいいお祭りになるのかどうか検討してみたいと思います。お答えにはなりません、守っていきたいと思います。

(永尾副市長)

私の方から。文化・伝統と言うことで、先ほど野坂中学校さんの方からけん玉の提案がありましたけれど、このけん玉を守るのもなかなか大変でして、後継者がおられないのが大きな課題です。今、お一人作っておられるんですけども、この方の後継者ということで、40歳前後の方に今習っていただいてけん玉を作っていただくようにしております。けん玉だけではなかなか商売として成り立ちません。ここ1、2年では1,000個前後の販売がされています。だけど、けん玉だけで生計を立てていこうと思ったら年間十万個、売値を1,200円として、卸値が半分の600円です。600円とすれば、売り上げが6,000万円前後になりますけれど、ただ、材料費であるとか、機械の消耗、人件費等々を差し引くとなかなかそれでも大きな利益は出てこないという状況です。先ほど市長の中から、小学一年生の入学の時に記念品で考えたいということもありましたので、こういったことから文化、伝統を守っていきたいと思います。

(市長)

わざわざ図案も考えていただいたので、是非、どうなるかはわかりませんが、お預かりをしたいと思います。

(総合政策課長)

そうですね、よろしいですか。

(野坂中学校)

はい、お願いします。

(総合政策課長)

では、時間も後少しですが、もうお一人くらいいかがですか。では、吉和中学校さんどうぞ。

(吉和中学校)

はい。質問とか、提案とかではないんですけど、昨年、私の先輩が市長さんをお願いをした、地域の伝統文化を広げる機会というのを実現していただきありがとうございました。今年から神楽の競演大会に、吉和のこども神楽団も参加が出来るようになって、メンバーも、9月の中旬に競演大会があるので、それに向けて張り切って練習を頑張っています。ありがとうございました。

(市長)

神楽ですが、去年そういう提案がありましたね。今年は「巖島」という神楽の、新作ができて、なぜ廿日市の神楽団に主演をしてもらえないのかと言ったんです。北広島の団になったのですが、少し、技術の上で北広島が県内ではなかなか良く舞うということで、しかし、廿日市市内の神楽団を見ましても、9月14日に競演がありますが、このようなことを通して、頑張っていたきたいと思います。

今、総合政策課長からも言いましたが、市の総合計画の、開いてもらうと一番下の段に、

基本目標というのがあります。その一番左の政策目標、どんな町にということ、「安心・安全して暮らせるまちに」というのがあります。内容は下に書いてありますが、もう一枚開いていただいて、政策目標、経営目標と具体的施策、政策目標 1-1 というところに「安全で安心して暮らせるまちに」、2つ目のところに、子ども通学路安全対策の実施というのがあります。そうした、政策ごとに大きな柱として取り組んでいることが、戦略といえますか、市が重点的に取り組む計画としております。

(川本副市長)

総合計画というのはですね、廿日市が合併をしまして、その後の平成 21 年から 27 年までの計画ですね。その中で、今見ていただいている政策目標というのは、私達が市として取り組むことが書いてあります。これは市民の皆さんに知っていただいて、その計画に従って組織を作って市役所として取り組むものです。今市長がおっしゃったように、政策目標の安心安全のまちづくり、子ども通学路安全対策の実施、政策目標の 1-4、4つ目のところですけど、戦略というふうに書いてありますけれども、ここに子どもが健やかに育つまちに、というのがございまして、この中に、子どもが安全に遊べる公園や子育て支援センターとして、次に、小中連携・一貫教育の推進、読書環境の充実等々、子どもさんのあるいは学校、小中高生の皆さんの様々な安心して学べる環境づくり、についても言及されています。その他、下の方には先ほど言ったバリアフリーの町づくりなども、2-2、JR 駅のバリアフリー化の推進というのもございまして。こうやって、皆さんが安心して、そして幸福に過ごせるまちづくりというのをめざしてやっておりますので、今日は皆さんにいろいろ聞かせていただいたので非常に安心・安全、そして清掃なども、皆さんが日頃から取り組んでいただいていることが、そういったまちづくりの一つになっているということで非常に感謝をしますし、本当にありがたいなと思ひまして、皆さんのご提案をまちづくりに生かしていきたいなと思ひます。是非持ち帰って、眺めてもらって、はつかいちのまちづくりにより大きな関心を持って、またご提案いただけたらと思ひます。

(総合政策課長)

それでは時間になりましたので、市長にまとめをお願いします。

(市長)

今、副市長がまとめをしたようなものですが、皆さん、今日は、お休みのところを参加していただき、ありがとうございました。また、引率いただきました先生方に感謝をいたします。今後ともよろしくお願いいたします。子どもたち健やかにこうした考えのもとに、育ってくれること、はつかいちに愛着が持てるようになると思ひます。是非、先生方もよろしくお願いいたします。“まち”をよくするために、一人一人、真剣に考え、自分たちにできることから取り組んでいくという皆さんの姿勢が伝わり、大変喜んでおります。

これからも、廿日市のまちづくりに関心を持っていただきたいと思います。そして気付いたことがあれば、山陽女学園さんが提案をしていますが、そういう質問にお答えする、それは広報だけでなく、皆さんが、平素考えたときに、教育部長なり私どもに、率直に忌憚のない意見をお寄せいただきたいと思います。今日は、貴重な意見をいただきまして、

誠にありがとうございました。

皆さん、廿日市市に愛着と誇りを持って、大きく成長してほしいと思います。どうか、健康に気をつけて、私のように脳梗塞にならないように、これからも、勉強やスポーツなどをがんばってください。町づくり、こういう時世ではありますが、私ども、市役所も力を合わせて頑張っていきたいと思います。

(総合政策課長)

これで、中学生と市長のふれあいトークを終わります。ありがとうございました。